懸け橋 次世代へ

ふるさと上越ネットワークの皆さん 座談会

ふるさと上越市の出身者たちが郷土への熱い気持ちをつなぎ、首都圏を中心に全国的な組織として地道な活動をしているふるさと上越ネットワーク（略称・Jネット、和久井博会長）があります。迎える北陸新幹線の開業がもたらす上越新時代は、Jネットにとっても新しい時代の到来になります。指呼の間に迫った新幹線新時代を、上越と歴史的に結びつきの強い首都圏の〝もう一つの上越〟はどう迎えるべきでしょうか。昨年12月12日に東京新潟県人会館で運営委員らJネットの皆さんによる座談会を開き、お聞きしました。

JネットURL　http://www.joetsu.gr.jp/

―上越市の出身者でつくる「ふるさと上越ネットワーク」（略称・Jネット）の活動と目的を上越地域の人たちや若い世代に紹介してください。

和久井　最初は上越市がつくりました。会則に目的が記してありますが、本音の目的は、首都圏にいろいろな出身者がいて、お持ちのノウハウを行政に役立てられないか、上越を応援してくれる東京新潟県人会の部会的ニュアンスをJネットに求めたのではないでしょうか。

中村　16年余りたつ会に途中から入り、2年前からホームページを担当しています。会報の全ページを掲載して経過が分かりましたが、初期の10年間があり、次の10年の真ん中に今います。活動と思いを引き継ぎ、発展させ3番目の10年につなぐ必要があります。

和久井　大事な指摘をいただきました。初期は官側の組織で距離感があった会員もいました。同時にいろいろな高校の卒業生が集いやりにくいという話もありました。でも次の時代からは、市が手を引いたこともあるかもしれませんが、逆に和気あいあいの雰囲気です。市からは協力要請はありますが、それ以上のことはありません。導う会で市長の出身地区の話も話題になることがありますが、利益団体に関係ない集いであるのがいいと思います。

勝島　今は逆にいろいろな高校の卒業生がいていい雰囲気で、誘いやすい。問題は若い人対策。次の10年の真ん中なので、あと4、5年で若い人たちが多くなってほしい。

中村　狙い目は40、50代。経験から現役時代は出たくても出られない。定年になってからの入会もそれはそれでいいのでは。30年ぐらいの長期的視点で未来の後継者たちを取り込むことが必要です。

未来の後継者取り込む

個人情報保護で名簿を確保できないので、進学、就職で上京する際の心配や不安の解消に、相談に乗れるJネットをPRするチラシを各高校から配ってもらったらどうか。卒業生はそのチラシをお守りにして上京してほしい。もし1人でも相談者があれば口コミでJネットの存在感が広まると思います。

勝島　そうなってほしいけれど、真正面高同窓会で学校を通して新卒者に親睦会費無料で参加を呼びかけても反応がない現実もあります。1回出てもらえれば、後になって出てもらえます。

和久井　きょうだいの多かった昔と違い、今は長男長女の社会。新潟の大学どまりで東京に来ない。先日、東京糸魚川会の方と話した時に息子が会員になっていると聞きました。そこも考えなければならないかも。

朝倉　都内の町会も年寄りばかり。若い人を出す手だては見つからない。逆に若い人が出ても年寄りばかりでは疎外感を感じてしまう。でも会社の飲み会に出なかった若者が、3000円ぐらい会社持ちで出るようになったという話も聞きます。

藤沢　視点を変えると意外に参加を誘えるのでないか。Jネットの勉強会もそう。最近だと鎌倉、駒場東大、フジテレビの参加が多かった。駒場は手ごろなフランス料理が人気でした。テレビ局は面白い。興味を誘えるものなら参加するのでは。

中村　話は退会阻止と新規入会促進で分けるべきだ。若い人を対象にした場合、下部組織というのでないけど、青年部や旅行部など興味ある人から集まってもらう方法もあります。ゴルフ、囲碁、将棋、落語、酒飲み会と何でも。核になる人が2、3人いれば青年部はできます。若い人が10人も集まれば何でもできるはず。

田端　サッカーのアルビレックス新潟が活躍しています。大試合で横浜にも勝ったし、成績も良く血が騒ぐ。みんなで応援するのもいい。

和久井　アルビの大野選手は上越市出身。湘南ベルマーレにレンタル移籍しています。大野選手のファンクラブをつくろうという話もあります。

勝島　公認会計士湘門会も年寄りばかり。若手のために予算を確保するからと促したら、中盤が動き、若い人たちを集めて就職説明会を開くなどして動き出しました。

朝倉　職能集団は目的が共通しているのでできる。年寄りでもいいのでないですか。一生懸命に楽しくやれば。その上で若い人が入れる雰囲気も大切に。

―今年は高田開府400年の節目です。上越市でも記念事業が計画されています。ふるさとの歴史や伝統はどう見えますか。

朝倉　北陸新幹線と江戸から金沢までの北国街道のルートが重なっています。歴女、歴ガールが魅力的に感じる歴史の掘り起こしをしてほしい。上越妙高駅から次の宿場の高田、糸魚川までたどれる歴史物語のつなぎも欲しい。関連で音、雪国の暮らし体験もいい。雁木は暮らしの知恵。かつて雁木の反対側まで雪のトンネルがありました。中にろうそくがともっていました。新しいものを残さないと、古いものも残さない。大湯の人工温泉はばらしかった。

朝倉　治さん（69）

■エー・シー・エー代表取締役、上越市南城町1出身

藤沢勝一郎さん（71）

■上越総合技術高同窓会関東支部長、上越市東本町4出身

田端　宗寿さん（78）

■秋田雨雀・土方与志記念青年劇場顧問、上越市金谷出身

出典：「上越タイムス」２０１４年１月１日（水）Ｐ４～Ｐ５

発行所：㈱上越タイムス社／本社：〒943-8555 上越市高土町2-4-6　TEL 0120-17-4243

首都圏と郷里つなぐ

新幹線開業　受け皿作り急務

偉人　文化遺産　歴史
観光資源を最大限に

和久井　博さん（72）

■ふるさと上越ネットワーク会長、上越市幸町出身

藤田　東京方面の旬会のグループがわざわざ高田へ行きます。季節になる所が多いそうです。モチーフは雁木もそうだし、ハスや桜、雪も。地元で気がつかないような文化遺産の売り出しは重要です。

中村　遺産や偉業、偉人のPRは大切ですが、一つひとつや1カ所ずつだと弱い。観光地も含め見どころ100選として1枚にまとめて掲載、紹介したら観光客や新幹線利用客に喜ばれると思います。

和久井　それも有用ですが、1人に集中した方がいいのでは。消費税が上がると前島密の一円切手が2枚必要になります。前島密の業績は多岐にわたり新潟県を代表する偉人として売り出すべき。

田端　子どものころは祇園祭が楽しみの一つでした。文化的な催しの復活はいい。学校は文化拠点。大学は企業と同じ。上越教育大を巻き込んでイベントやったらいい。

藤田　香代さん（82）

■高田高女＆高田北城高同窓会東京支部会会長、上越市西城町３出身

旧青川高校の醸造科がなくなったのは惜しい。

和久井　東大の先生が地方都市の風格について本を出していて、その中では上越が姫路より格上になっています。外から見るとふるさと上越のレベルは高い。

―合併上越市が誕生してから9年。合併後のまちづくり、ふるさと上越はどう映りますか。

藤沢　広くなりすぎて、例えば地すべりの災害が報じられても地区が分かりません。人口減は全国的な問題ですが、ふるさとに危機意識はあるのでしょうか。高齢者に魅力的なまちづくりの視点があってもいいのでは。減り方にブレーキをかけるまちづくりも必要です。

田端　増やすより減らさない、現状維持のアイデアが必要。

中村　人口問題は一つのまちや県で解決できません。日本全体の問題。5年、10年でやるべき対策と50年の大計で考えるべき対応があるはず。人口減少を逆手にとって、高田の集積地域とそうでない地域に分けて開発する選別施策もあるかもしれない。

田端　開発はいいのか悪いのか。村上は古い伝統が残り、豊穣高田もレトロを売りにしてわざわざ全国から見に行っています。高田にも歴史、伝統は残っていましたが、新潟気質の精神に富むのか。文化遺産は大切にしてほしい。

―旧14市町村の合併でした。自治の仕組みは全国から注視されていますが、一方で一体感の視点も指摘されています。

中村　合併後に区めぐりの話も出ましたし、違和感はありません。半面、首都圏で活動する各区の郷人会（ごうじんかい）との関係はそれぞれ歴史があるので強要できません。互いにメリットがある形の模索が必要ですが難しい。

田端　物産販売はありがたいし、ふるさとにもメリットがあります。このメリットをもっと生かせるようにしてほしい。

―北陸新幹線と上越妙高駅が平成27年春に開業し、上越新時代を迎えようとしています。開業への期待感は。

中村　新幹線は手段であって、何を企画するかは今後の課題。乗り換えがなくて済むけれど、上越妙高と首都圏は時間短縮の効果は、あまりありません。駅を降りたらどこへどう行けるのか。3泊4日ぐらいで3から5パターンの移動メニューを提案していただきたい。

中村　眞和さん（74）

■横浜ＰＣビジネス代表、直江津町八幡区出身

勝島　敏明さん（74）

■Ｊネット副会長、直江津高・直江津中等教育学校同窓会関東支部長、上越市天王町出身

勝島　それで割引感があれば最高だね。3割引きなら相当な割引感、おいしい。

―北陸新幹線に関するふるさと上越からの情報発信は届いていますか。

朝倉　上越は北陸ではありません。北国街道沿い。北陸新幹線の中での情報発信は難しい。何本止まるのかも分かりませんが、早く発信することが大切です。

勝島　上越妙高駅からの足がどうなるか気がかりです。三セク鉄道のアクセスはあるでしょうが、駅に着いたらどうなるのか。交通サービスの充実は不可欠だと思います。

藤田　聞こえてくる上越のPRは地味かもしれません。上越妙高駅に降りても高田で旅行者は紹介しづらいかも。やっぱり妙高。ふるさとの地域連携が必要だと思います。開業に期待し楽しみにしています。

藤沢　企画で集客のあるのはウオーキングとマラソンだそうです。

田端　宿泊先の魅力も大切。赤倉の底上げも欲しい。妙高のゴルフ場の日本海の見えるロケーションは全国一だと思います。

朝倉　繰り返しますが歴史が人を呼びます。歴女に歴ガール。山ガールも。宿泊先は何でもいい。若い人や外国人でも泊まれるいろいろな受け皿の用意が大切です。

勝島　Ｊホールディングスの温泉や宿泊施設は大いに利用したい。

田端　バスで巡れる所は多いけれど、いろいろでなく突出した所が欲しい。例えば大きなバーベキュー場があり、そこでくびき牛と上越野菜、ワインを楽しめるとか。1カ所でも印象的な所があるといい。

出典：「上越タイムス」２０１４年１月１日（水）Ｐ４～Ｐ５

発行所：㈱上越タイムス社／本社：〒943-8555 上越市高土町 2-4-6　TEL 0120-17-4243